

## 京阪神3地区が合併 近畿地区学会スタート

2014年6月21日(土)、京都・大阪・兵庫3地区の合併後初となる、第1回日本手術看護学会近畿地区大会が神戸国際会議場で開催された。菊地雅文会長は開会式で、「スケールメリットを活かしながら、専門性だけに捉われないことな

くあらゆる視点で学習や情報の共有ができる環境を整え、手術看護の向上を目指していきたい」と抱負を語った。また、来賓として臨席された菊地京子理事長は「役員の方々、会員の皆様のご努力でこのような立派な会がスタートする

ことに対し大変うれしく思う。今後この大きな学会が日本手術看護学会の中心として活躍してくださると確信している」と述べられ、これまで各地区の活動を支えた役員や会員へ感謝とエールを送った。大会では「つなげよう、私たち

までも見据えた中で、患者自身や患者家族とどう向き合うか、また病院内の様々な部門とどう関わればよいか等、手術室の専門知識と共に求められる手術看護のあり方について、講演や研究発表・実践報告会が行われた。約700席もあるメインホールは終日満席で、参加者がメモを取りながら大きくうなずく姿が印象的だった。(庄畑)

認定  
看護師

## インタビューリレー 〈第6回〉

周術期をめぐる、さまざまな連携が患者さんを救う

――月並みですが、看護師を志したきっかけは何ですか？

小学6年生の時でした。朝方、突然父の様子がおかしかったんです。お向かいに看護師さんが住んでいたの、急いで診てもらいました。「心筋梗塞を起こしているかもしれない」とアセスメントしてください、おかげで一命をとりとめる事ができました。「看護師ってすごい！」と感銘を受けました。――手術室勤務になった経緯は？



松沼早苗氏

【プロフィール】  
 自治医科大学附属病院 手術室  
 (手術看護認定看護師1期生)

習では、全くの見ず知らず、人間関係もさっぱり分からない組織の中で、いきなり手術看護展開のプランを提案しなくてはなりません。悪戦苦闘でした！手術

実は、入職時の第3希望でした。外科系の職場に就きたいと考えていて、手術室なら一通りの事を習得できるかなあーと思っただけです。でも、水が合ったみたいで(笑)、循環器科病棟へ2年間出た

以外は、ずっと手術室勤務なんです。しかも、ずっと同じ病院です。ですから、認定看護師教育課程の実習で初めて他施設の手術室に3ヶ月も入らせてもらった事は、本当に良い経験となりました。実

看護分野1期目でしたから、受け入れる側もさぞかし当惑された事と思います。――昨年、大学院に進学されたそうですね。

またもや学生生活です(笑)。周術期の看護展開を考えると、どうしても部署や職種横断的な調整が必要なるに気付きました。そのためには、どのような連携が患者さんにとって有益か、研究しなければと思ったのです。入院期間もますます短くなり、在宅との連携も必然となる事でしょう。思い立ったら止められない性格で：仕事と両立しながらの通学で、さすがに毎日クタクタです。

――自治医科大学附属病院手術室の魅力を教えてください。念願の術前外来を2年前に開設しました。麻酔科との協働で運営しています。現在、手術室には60名以上の看護師が在籍し、約9

000件の手術を行なっています。が、何とか時間を創出しながら昨年度は約25%もの患者さまに術前外来を利用して頂きました。患者様の不安や悩み、家族からの素朴な疑問に寄りそう事は、看護師のやりがいにもつながっていると感じています。

――最後になりましたが、手術看護のこれからをどのように描いていらっしゃるのですか？

最近実感していますが、年を重ねると手術室勤務はきつい事も多くて。術中は立ちっぱなしで疲れるし、細かい糸は見えなくなってくるし(笑)手術看護のエキスパート達が手術室からどんどん巣立ち、その知識と経験を活かして様々な部署で活躍できるようにしていきたいですね。実現すれば、手術はより患者さんにとって安楽なものになると思います。

(聞き手：陶守)

## 日本医療マネジメント学会 ランチョン セミナー速報

2014年6月14日(土) 第16回日本医療マネジメント学会学術総会(会場：岡山コンベンションセンター)において、リフトアップ・ボレーショ共催のランチョンセミナーが開催され、手術看護認定看護師の活動紹介を通して、来場者が周術期を患者視点で考える絶好の機会となった。会場では、演者の加納朋美先生(名古屋第一赤十字病院)、中村霞子先生(京都医療センター)、中村良子先生(伊勢赤十字病院)の、それぞれの精力的な活動に大きな関心が寄せられた。座長の田中聖人先生(京都第三赤十字病院)は認定看護師の高いモチベーションと行動力に感嘆されると同時に、看護師としての「やりがい」について意見交換が繰り広げられた。(陶守)



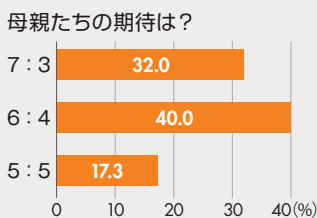
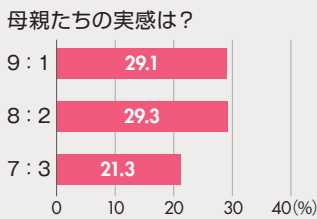
活動の源泉である看護師のやりがいについて、時間いっぱいまで盛り上がった

# 子育て白書 妻と夫、理想の分担は？

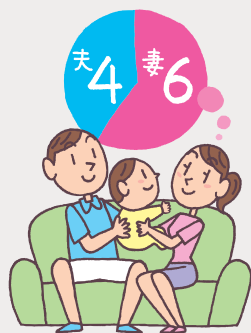
働く女性にとって、子育ては大きな悩みの一つといえるだろう。

国民生活白書（平成19年度版）

によると「子育ての負担は母親に集中している」という調査結果が公表されている。中でも、子育てにおける母親と父親の分担の割合



について、実態を母親に尋ねた設問では、「妻8:夫2」と回答した人の割合が29.3%と最も高く、次いで「妻9:夫1」（29.1%）、「妻7:夫3」（21.3%）と続いており、子育ての負担感が女性に偏っていると判る。それでは、母親たちが期待している子育ての役割分担はどの程度なのだろうか。なんと「妻6:夫4」と回答する人の割合が40.0%にも及んだ。次いで「妻7:夫3」（32.0%）、



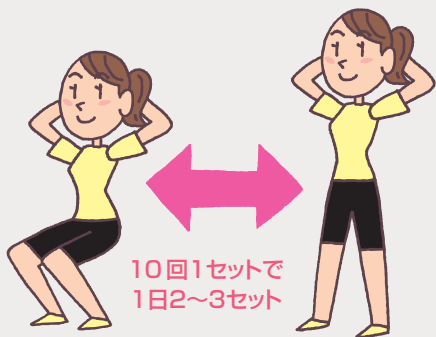
「妻5:夫5」（17.3%）と実態とは大きく異なる結果となった。父親により多くの役割分担を期待するがゆえに、現実とのギャップに悩む実態が見て取れる。地域や社会の支援もうまく活用したいものだ。

女性の多い看護師の職場では、看護協会による多くの施策もあり働き続けやすい「職場づくり」が進みつつある。周囲に相談し、理解と協力を求めることが重要だ。

## 燃やそう 内臓脂肪！ 減らそう お腹まわり！

夏が近づいてきた。「今年の夏までには」と密かにダイエットの準備をしている方も多い事だろう。さて強敵は内臓脂肪、なかなか取れない。そのために毎日数十回もの腹筋運動を行っている人が多くいると聞く。きつい腹筋運動は筋肉の表面は鍛えられるが、内臓脂肪への効果はあまり……。そこで、スクワットをやってみてはいかがだろう。自宅で気軽に始められる有酸素運動として最近

人気が高い。①肩幅程度に足を開く②両手を頭の後ろで組む③背筋を伸ばし、かかとに重心を置き膝を曲げる④大腿部と地面がなるべく平行になるまで膝を曲げる⑤膝を曲げる時にゆっくり大きく息を吐き、伸ばす時にゆっくり大きく息を吸う。「10回程度を1セット」として、1日に2〜3セットを行う。足腰の鍛錬にも良いようだ。ただし、無理は禁物。さあ、夏があなたを待っている！



10回1セットで1日2〜3セット

「育児短時間勤務制度」や「院内保育所」の充実、「ママさんナース」の活躍をホームページでアピールする病院や施設も多い。働きやすい職場を選択するのも悪くない。蛇足ながら：私の場合、妻は私「妻5:夫5」（17.3%）と実態とは大きく異なる結果となった。父親により多くの役割分担を期待するがゆえに、現実とのギャップに悩む実態が見て取れる。地域や社会の支援もうまく活用したいものだ。

## 人気！この夏どいく？ 海外旅行ベスト5

今年、嗜好性が強くちよつと高めの価格帯を選ぶ「ゆとり消費」が広がりを見せている。

大手旅行会社JTBによると、ゴールデンウィークが飛び石連休で海外旅行を控えていた人たちが、夏は旅行の内容や質を重視して、ホテルのグレードを上げたり移動をエコノミークラスからビジネスクラスへランクアップする傾向があるらしい。また、昨年はアジア方面への旅行が人気だったが、今年はずっと行きたい場所で行先を選び、家族そろって中長距離方面へ出かける人が増えている

2013年	2014年 (5月末時点)
1位 ソウル	1位 ホノルル
2位 バンコク	2位 バンコク
3位 ホノルル	3位 ロンドン
4位 台北	4位 グアム
5位 上海	5位 パリ

(ネット予約海外航空券都市別人気ランキング JTB調べ)



## LivedoTopics

### 新入社員、手作りドレープにチャレンジ！

4月に入社した当社の新入社員たちは、例年3ヶ月にわたる工場での研修プログラムが用意されています。配属の部署に関わらず、紙おむつの製造工程もメディカルのキット組立でも学びます。手術室の製品は普段なじみがないため、研修生たちはみな興味深々、ドレープを手作りしながら生産現場の苦勞を体感すると同時に、取り付けられた仕様のひとつひとつの役割を学習していました。期間



### 編集後記

身内の話で恐縮ですが、6月に76歳の父が腰の手術を受けました。術前も術後も、残念ながら担当の手術室の看護師さんとお話する機会がありませんでした。調査や取材では全国の手術室を訪れることはあっても、患者の家族の立場では、手術室に近づくことも出来ませんでした。こうして、人生の一大イベントである手術の多くは、当事者と医師以外の手術に従事してくれた関係者との交流がないまま、そそくさと退院していくのだなあ……という急性期病院の現実を味わったのでした。

患者や家族の目に映る医師や看護師の姿は、めまぐるしく業務をこなす、時間に追われ、確認に追われ、声をかけるのも気後れしてしまうくらい。行きつくと、「医療従事者にこそ休息編集長 陶守久美子」